

【施策評価調査】

| | | | | | |
|------|-----------|-----------------------|-------|----|--|
| 施策名 | 3-1-1 | 環境基本計画の策定と運用 | | 96 | 施策目的 政策「3-1.自然環境の保全と創造」を実現するためには、 ①高根沢町が守るべき自然環境とは何か？、またどのようにして高根沢町の自然環境を創造していくべきか？というビジョンを明確にし、ルール化 ②①で明確にしたビジョンを実現できる人材の育成 ③①で明確にしたビジョンを確実に運用できる仕組み作り …という3点からのアプローチが必要です。 この施策は、①の観点から政策を実現させるために設定しました。 |
| | | ※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ | | | |
| 担当部課 | 住民生活部 環境課 | 担当 | 環境担当 | | 施策内容 高根沢町環境基本条例に基づき、本町の環境保全と活用の指針となる環境基本計画を策定し、小中学生を中心に本町の自然環境の現状を把握する自然環境基礎調査(指標生物調査)を実施します。また、住民が主体となった雑木林の整備や河川の清掃活動などを支援する自然環境保全事業を実施します。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋) |
| | | リーダー | 竹澤 伸一 | | |
| 環境変化 | 特にありません。 | | | | |

■指標

| 施策の評価指標 | 基準値 | 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | | |
|------------------------|---|----|------|------|------|------|------|------|---|
| 指標①:環境基本計画の策定 | 平成16年度 | 計画 | 策定 | | | | | | |
| | 未策定 | 実績 | ↑ | 策定 | | | | | |
| 指標②:自然環境基礎調査(指標生物)参加人数 | 平成16年度 | 計画 | | 150人 | 200人 | 250人 | 250人 | | |
| | 0人 | 実績 | → | 0人 | ↓ | 107人 | ↓ | 159人 | ↓ |
| 指標③: | | 計画 | | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | | |
| ◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆ | 指標②については計画値を達成していませんが、平成20年度整備した森を活用した自然観察会の実施により参加者数が増えています。 | | | | | | | | |

| 施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移 | 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|-----------------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| | 当初 | 5,073,000 | 1,454,000 | 1,322,000 | 1,284,000 | |
| | 決算 | 3,870,250 | 1,116,408 | 1,076,562 | 724,832 | |

■事務事業事後評価 21年度の検証

| 施策傘下事務事業 | 事業費 | 活動量(アウトプット) | 施策への貢献度 | 施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム) | | | |
|------------------------|---------------|-------------------|---------|--|----|--------------|----|
| | | | | 今後の方向性(自己評価) | 継続 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| ①自然環境保全事業 | 当初 170,000 | 支援事業数 | A | 平成20年度に整備された里山山林に落ち葉プールをつくり、自然環境との共生につながっています。 | | | |
| | 決算 16,930 | 2件 / 2件 | | 今後の方向性(自己評価) | 継続 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| ②身近な自然環境調査事業費 | 当初 130,000 | 調査活動参加者数 | B | 天体観察会やキノビールと連携した自然観察会をとおして、子どもたちに本町の自然環境の現状を理解してもらうことにつながりました。 | | | |
| | 決算 86,382 | 217人 / 250人 | | 今後の方向性(自己評価) | 継続 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| ③水質調査事業費 | 当初 984,000 | 水質調査検体数 | A | 定期的に水質調査を実施することで、町内の河川や地下水飲料水の環境基準達成を維持することができ、自然環境の保全と町民の快適な生活環境の確保につながっています。 | | | |
| | 決算 621,495 | 58検体 / 58検体 | | 今後の方向性(自己評価) | 継続 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| ④エコ・ハウスたかねざわ運営管理費(※再掲) | 当初 10,000,000 | 利用者数 | A | 環境体験学習などのさまざまな活動をおして環境問題に興味や関心をもてるよう取り組んでいます。 | | | |
| | 決算 10,069,300 | 30,147人 / 20,000人 | | 今後の方向性(自己評価) | 継続 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| ⑤ | 当初 | | | | | | |
| | 決算 | / | | 今後の方向性(自己評価) | | 今後の方向性(総合評価) | |

■施策事後評価 21年度の検証

| 自己評価 | 施策達成状況に関する評価 | 課題と今後の方向性 |
|------|--------------|---|
| | 総合評価 | エコ・ハウスたかねざわ、キノビールと連携し環境学習活動として、自然観察会を行い、自然環境への理解と創造を深めることにつながりました。また定期的に水質調査を実施することで、自然環境の保全につながっています。 継続的に施策展開されていると評価する。現在行っている事業を精査した上で、町がすべきこと、エコ・ハウス等の機関が行うこと、住民が主体となって行うことなど役割分担を明確にし、「高根沢町の望ましい環境像」とはどうあるべきなのか、後期計画に向け、もう一度インパクトのある施策展開を期待する。 |